



私たちは、未来へつなぐ「環境づくり」と「人づくり」に貢献します。

グループの社会貢献活動 「阪急阪神 未来のゆめ・まちプロジェクト」

【阪急阪神ホテルズ】

廃棄していた「いろねこ食パン」の《耳》を販売し 売上金を寄付する活動をスタート

阪急阪神ホテルズでは、大阪新阪急ホテルの地下1階にあるベーカリー&カフェ「ブルージン」において、これまで廃棄していた「いろねこ食パン」の《耳》をお客様に安価で販売し、その売上金を大阪府動物愛護管理センターに寄付するという取組を2018年2月から始めています。食品ロスが減ることで、環境負荷の軽減にも役立っています。



上記の「ブルージン」では、『おいしく、楽しく』をコンセプトに、味だけでなく、見た目も楽しんでいただけるような商品づくりを目指しています。中でも、2017年5月の発売以来話題となっているのが、ねこ型の食パン「いろねこ食パン」。チョコペン等でねこの顔を自由に描けるとあって、大変好評をいただいております、お店に並べると短時間で完売する人気商品です。

そのため、毎日フル回転でパンを焼いています、そのたびに出てしまうのが、スライスしたパンの端である《耳》の部分。一般的な食パンが3斤の型で焼かれるのに対し、「いろねこ食パン」は、ねこの耳の形をしっかりと出すために1斤用の型を用い、オーブンに縦置き

にして焼いています。そのぶん《耳》の数も多くなり、型の底の《耳》はどうしても固くなるため、以前は廃棄していました。

そこで、これを何とか活かさないかという話が持ち上がり、検討した結果、お客様にこの《耳》を安価で販売し、その売上金を大阪府動物愛護管理センター（通称：アニマルハーモニー大阪）に全額寄付するという活動を始めることになりました。おかげさまで毎日完売しており、お客様に《耳》を買っていただくことで、食品ロスを減らし、環境負荷を軽減することにも寄与しています。

阪急阪神ホテルズでは、これからもお客様とともに社会貢献活動に取り組んでまいります。

発行： 阪急阪神ホールディングス株式会社 〒530-0012 大阪市北区芝田一丁目16番1号
TEL:06-6373-5100 FAX:06-6373-5670

株主様のご意見・ご感想をお待ちしております。
<http://www.hankyu-hanshin.co.jp/contact/>



この印刷物は、大豆油インキを包含した植物油インキと適切に管理された森林の木材を利用しているFSC® 認証紙を使用しています。



見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

HANKYU HANSHIN Letter

株主通信
Vol. 36
2018年11月発行

トップメッセージ 持続的な成長を目指して 中期経営計画を着実に実行してまいります



六甲山スノーパーク

兵庫県神戸市の中心部から車で約30分の六甲山で、スキー場や植物園、展望台、オルゴールミュージアムなど多彩なレジャー施設を展開しています。このうち六甲山スノーパークは、スキー場を中心に、雪遊び専用ゲレンデを整備したり、訪日外国人向けのスクールを充実させたり等して、多くの方々に賑わっています。

持続的な成長を目指して 中期経営計画を 着実に実行してまいります



代表取締役会長 グループCEO

角 和夫

代表取締役社長

杉山 健博

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼を申し上げます。

この上半期は、関西圏をはじめ日本全国の各所で、自然災害が相次いで発生しました。まずは、被災された皆様に、心からお見舞いを申し上げます。

さて、当社グループでは、景気が緩やかな回復を続ける中、今春に策定した中期経営計画の目標を達成すべく、グループ経営機能を担う当社のもと、中核会社を中心に各コア事業の競争力強化を図るとともに、コア事業間の連携を通じてグループ総合力の発揮に努めました。

その結果、2018年度第2四半期の連結業績につきましては、不動産事業においてマンション分譲戸数が前年同期を上回ったこと等により、営業収益は前年同期に比べ増加しました。しかしながら、多くの事業において自然災害*の影響を受けたほか、阪神タイガースの公式戦主催試合が減少したことや前年同期に事業用地の売却があった影響等により、営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する四半期純利益は、いずれも前年同期を下回る結果となりました。

そして、通期の連結業績予想につきましては、自然災害の影響を受けたこと等により、営業利益を1,070億円（2018年度5月発表予想比△30億円）、経常利益を1,030億円（同△40億円）、親会社株

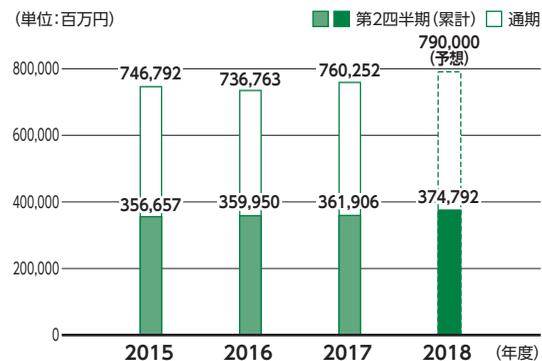
主に帰属する当期純利益を650億円（同△50億円）に、それぞれ下方修正いたしました。ただ、この一連の自然災害による影響を除けば、当社グループの各事業は概ね堅調に推移しているものと考えております。

そうした中、この上半期は中期経営計画の4つの戦略のうち、一つ目の戦略である「梅田・沿線のストック型事業」に関するトピックが幾つかありました。梅田1丁目1番地計画では、I期棟が4月に予定どおり竣工し、6月からそのI期棟部分において新しい阪神百貨店が部分開業しています。また、グランフロント大阪の西側に位置している「うめきた2期地区」の開発事業者に、今年の夏、阪急電鉄と阪急阪神不動産が参画する企業連合（コンソーシアム）が選ばれました。当社グループとしては、これらを通じて「関西で圧倒的No.1の沿線の実現」に向け、一歩一歩進めてまいりたいと考えております。

これからも株主の皆様のご期待に応えられるよう、グループ一丸となって取り組んでまいりますので、今後とも皆様のご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

*大阪府北部地震、平成30年7月豪雨、台風21号、北海道胆振東部地震、台風24号

営業収益



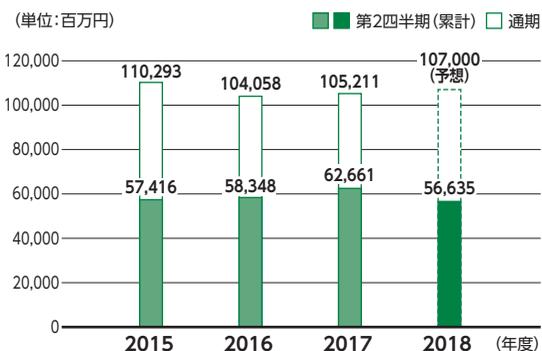
3,747億92百万円
(前年同期比3.6%増)



不動産事業においてマンション分譲戸数が前年同期を上回ったこと等により、営業収益は前年同期に比べ3.6%増加し、3,747億92百万円となりました。

しかしながら、多くの事業で自然災害の影響を受けたほか、阪神タイガースの公式戦主催試合が減少したことや前年同期に事業用地の売却があった影響等により、営業利益は前年同期に比べ9.6%減少し、566億35百万円となりました。

営業利益

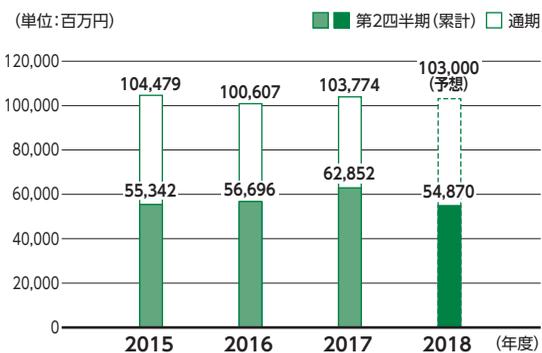


566億35百万円
(前年同期比9.6%減)



※2016年度より、国際輸送事業の輸出混載貨物等に係る取引について、営業収益の計上方法を純額表示から総額表示に変更しております。この変更に伴い、2015年度については、総額表示に遡及修正しております。

経常利益

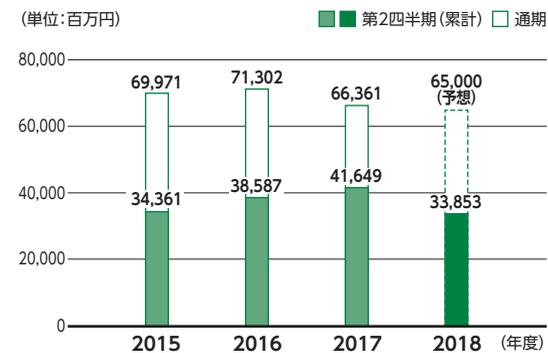


548億70百万円
(前年同期比12.7%減)



営業利益が減少したことに加えて、持分法投資利益が減少したこと等により、経常利益は前年同期に比べ12.7%減少し、548億70百万円となりました。

親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益

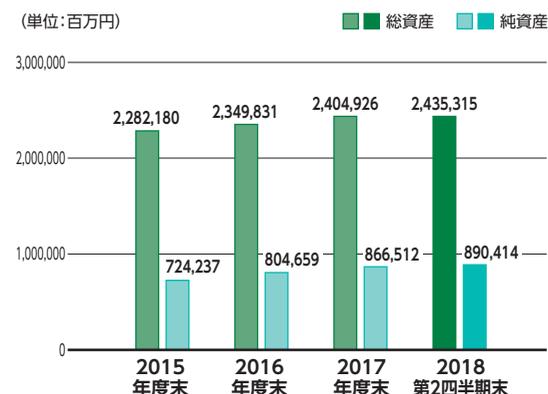


338億53百万円
(前年同期比18.7%減)



経常利益が減少したことや、特別損益が悪化したこと等により、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期に比べ18.7%減少し、338億53百万円となりました。

総資産・純資産



総資産 2兆4,353億15百万円
(前期末比303億89百万円増)



純資産 8,904億14百万円
(前期末比239億1百万円増)



総資産は、有形・無形固定資産が増加したこと等により、前期末に比べ303億89百万円増加し、2兆4,353億15百万円となりました。また、純資産は、利益剰余金が増加したこと等により、前期末に比べ239億1百万円増加し、8,904億14百万円となり、自己資本比率は35.4%となりました。

※2018年度より、「[税効果会計に係る会計基準]の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)の適用による表示方法の変更を行いました。この変更に伴い、2017年度の総資産額については遡及修正しております。

2018年度通期の連結業績予想の修正について

通期の連結業績予想については、多くの事業において自然災害の影響を受けたこと等により、下表のとおり5月に発表した予想数値を下方修正しました。

2018年度通期の連結業績予想の修正(2018年4月1日~2019年3月31日)

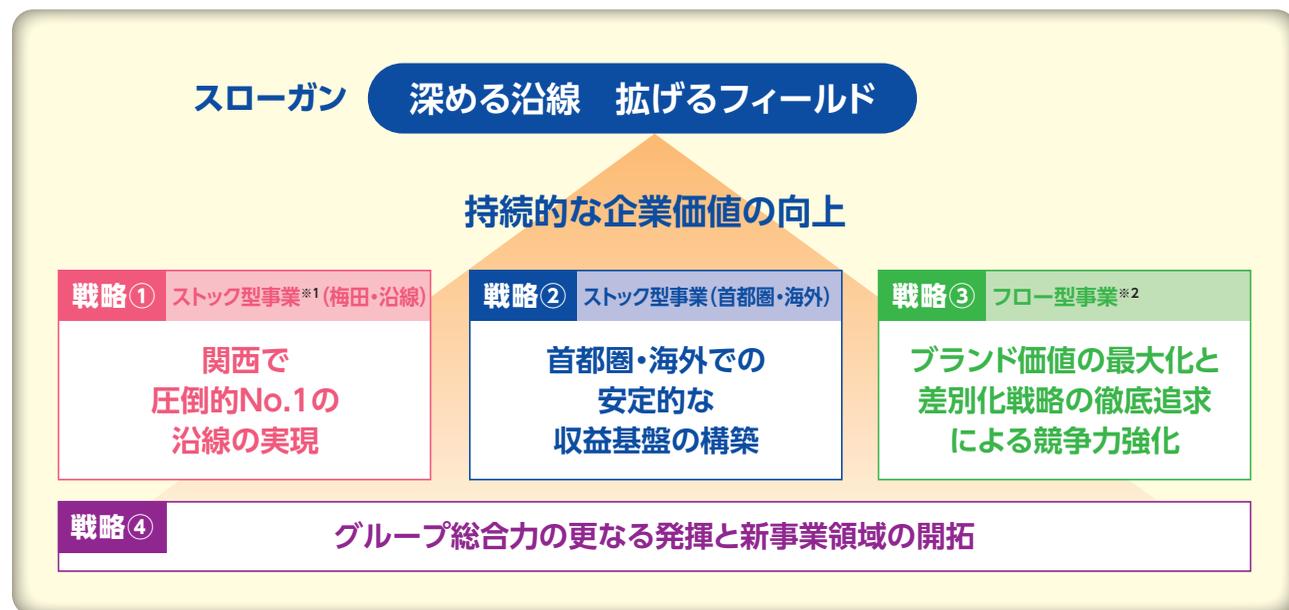
(単位:億円)

	2018年度 5月15日予想 ①	2018年度 11月1日予想 ②	比較増減(②-①)	前期実績(ご参考)
営業収益	7,900	7,900	—	7,603
営業利益	1,100	1,070	△30	1,052
経常利益	1,070	1,030	△40	1,038
親会社株主に帰属する当期純利益	700	650	△50	664
1株当たり当期純利益	285円66銭	264円92銭	△20円74銭	267円91銭

※上記の業績予想は、当社が2018年11月1日時点で入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づき作成したものであり、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は、今後様々な要因により予想と大きく異なる場合があります。

阪急阪神ホールディングスグループ 長期ビジョン2025

当社グループでは、これからの変わりゆく社会においても成長を志向する企業グループとなることを目指して、昨年「阪急阪神ホールディングスグループ 長期ビジョン2025」を策定いたしました。この長期ビジョンでは、「深める沿線 広げるフィールド」というスローガンのもと、下記の4つの戦略を通じて持続的な企業価値の向上を図ってまいります。



※1 ストック型事業：土地建物等の固定資産を保有して営業活動を行う事業（鉄道事業、不動産賃貸事業、放送・通信事業、ホテル事業等）
 ※2 フロー型事業：大規模な固定資産を保有することなく、事業ノウハウ、人的資源およびブランド資産等を活用して営業活動を行う事業（不動産分譲事業、スポーツ事業、ステージ事業、情報サービス事業、旅行事業、国際輸送事業等）

人口動態の変化の影響を大きく受ける2040年頃においても、営業利益が最低でも現行の1,000億円水準を生み出せる企業グループになることができるよう、戦略①～④の取組を推し進めることにより、2025年度時点では下表のとおり水準を目指します。これにより、収益性および財務の健全性を示すいずれの指標も、引き続き大手民鉄の中でトップクラスを維持してまいります。

	経営指標	2025年度にありたい姿
収益性	営業利益	1,200億円
	EBITDA※	2,000億円
財務の健全性	有利子負債/EBITDA倍率	5倍台

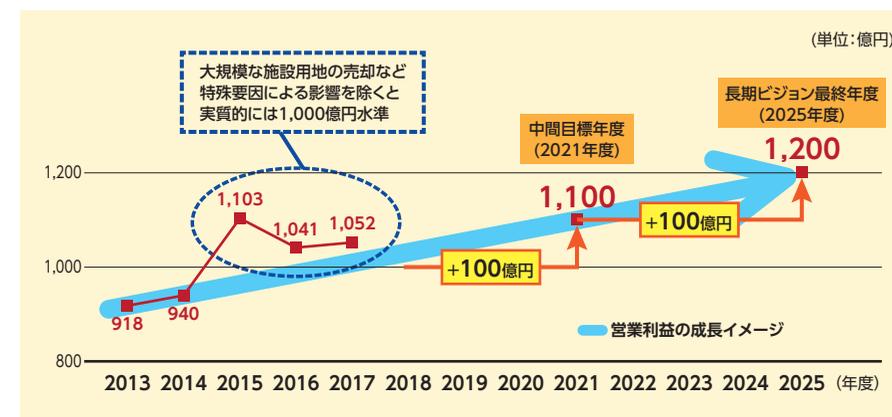
※EBITDA：営業利益+減価償却費+のれん償却費

中期経営計画(2018~2021年度)の概要

本年、長期ビジョンを実現するための具体的な実行計画として、2021年度までを計画期間とする中期経営計画を策定しました。

当社グループのここ3か年の営業利益は、大規模な施設用地の売却益など一時的な利益を除くと、実質的には1,000億円水準で推移しております。本計画においては、下記の4つの戦略に沿った施策を推し進めることにより、2025年度の営業利益目標1,200億円の達成に向け、まずは中間目標年度となる2021年度に営業利益1,100億円を目指すこととしています。

ただ、4つの戦略のうち、戦略①②(ストック型事業)については、投資の実行から利益貢献までに相応の期間が必要であり、また戦略④(新事業領域の開拓)も同様に、事業として自立するにはかなりの期間を要することとなります。したがって、本計画期間(長期ビジョン前半の2018~2021年度)では、戦略③に則った取組、すなわちフロー型事業を中心に、100億円の営業利益の伸長を目指してまいります。



戦略① 梅田・沿線のストック型の各事業(鉄道、不動産賃貸、放送・通信、ホテル等)の更なる深化

インバウンド需要の取込、梅田エリアのバリューアップ、沿線主要エリアの活性化、
 鉄道新線による交通ネットワーク(インフラ)の整備

FOCUS 西宮エリアの魅力向上 ▶ P7~P8
FOCUS うめきた2期地区の開発 ▶ P9

戦略② 首都圏・海外におけるストックの積み上げ

首都圏都心部におけるストックの積み上げ、首都圏におけるホテルの新規出店、海外ストック(不動産)の取得の検討

戦略③ フロー型事業(不動産分譲、スポーツ、ステージ、情報サービス、旅行、国際輸送等)の競争力強化

海外を含めたマンション事業の規模拡大、情報サービス事業の成長、旅行事業の利益伸長、国際輸送事業の取扱物量の拡大

FOCUS タイのマンションプロジェクト ▶ P10

戦略④ グループ総合力の更なる発揮と新事業領域の開拓

戦略① FOCUS

エビスタ西宮と阪急西宮ガーデンズがパワーアップ 沿線の魅力がさらに向上

2003年3月に開業した阪神西宮駅の商業施設「エビスタ西宮」が増床リニューアルし、10月29日にグランドオープンしました。また、阪急西宮北口駅に直結する西日本最大級のショッピングセンター「阪急西宮ガーデンズ」は、11月26日に開業10周年

を迎え、新たに「阪急西宮ガーデンズ ゲート館」と「阪急西宮ガーデンズ 別館」を開業しました。当社グループでは、今後も沿線のさらなる魅力向上を図ってまいります。

「エビスタ西宮」の増床リニューアル

「Quality Life Station」を施設コンセプトとし、生活の豊かさを感じながら自分らしいライフスタイルを実現する場が提供できるよう、リニューアルを行いました。増床部分の1階には、フードホールの進化系ともいべき新しいタイプのフード集積業態「STREET KITCHEN」がオープン。2階ではファッションや雑貨等を大幅に拡充し、3階ではリラク

ゼーションやクリニック、保育施設等のサービス施設を導入しました。

今回のリニューアルにより、店舗面積は約1.7倍、店舗数は29店舗から71店舗へと約2.5倍となり、西宮市の玄関口に相応しいエキナカ商業施設に生まれ変わりました。



STREET KITCHEN (店内の様子)



エビスタ西宮の外観



ゲート館の外観イメージ



ゲート館の施設内の連絡通路イメージ

「阪急西宮ガーデンズ ゲート館」 の開業

11月21日に、阪急西宮北口駅の今津行きホームの東側に「ゲート館」が開業しました。阪急西宮ガーデンズへの連絡通路の吹き抜け空間にはカフェやサービス施設等が出店し、にぎわいを創出するとともに、お客様をおもてなしする「ゲート（入口）」に相応しい空間を演出しています。

フロア数は11層（地下1階～地上10階）、店舗数は13店舗（ホーム高架下の2店舗を含む）からなり、飲食店舗等の商業施設や教育・保育サービス施設等を取り揃えることにより、駅周辺機能の充実を図りました。

「阪急西宮ガーデンズ 別館」の開業

10月1日から、別館（収容台数475台の駐車場）の利用が始まりました。これにより、周辺道路の混雑の緩和が図られ、阪急西宮ガーデンズがより利用しやすくなったほか、別館の1・2階部分には、各種クリニックや調剤薬局が出店しています。



本館の外観

阪急西宮ガーデンズは、2008年の開業以来、地域一番店として多くのお客様にご愛顧いただき、また幅広い世代に支持され、来場者は延べ1億7,900万人となりました（2018年3月末時点）。

同施設では、今般の開業10周年を機に、店舗の構成を大幅に見直すこととしており、2019年3月以降、多くのリニューアル店舗が順次オープンする予定です。

なお、同施設の名称は、上記2施設の開業を機に「阪急西宮ガーデンズ 本館」に変更しております。

戦略① FOCUS

うめきた2期地区の開発事業者に選定される

大阪梅田の最後の一等地とされているJR大阪駅北側の「うめきた2期地区」の開発事業者に、今般、阪急電鉄と阪急阪神不動産が参画する企業連合（コンソーシアム）が選ばれました。

当地区の東側では、1期事業として2013年4月にグランフロント大阪が開業。その来場者は5年間で延べ2億5,000万人に上り、当社グループが運営している商業施設の売上も着実に伸長しております。

それに続く2期のまちづくりの方針・理念は「みどり」とイノベーションの融合」。約4.5haの都市公園をはじめとした広大な緑の空間と、「新産業の創出」に向けたイノベーション施設のほか、ホテルやオフィスなどの施設が、2024年夏頃の先行まちびらきに向けて開発される予定です。



うめきた2期地区の全景（完成予想イメージ）

今後は、この「うめきた2期地区」において、コンソーシアム各社と連携して、関西、そしてアジアをリードする街づくりに取り組み、当社グループにとって最も重要な事業拠点である梅田エリアの価値をさらに高めてまいります。



戦略③ FOCUS

タイでの分譲マンション事業が着実に進展 事業参画が第7号プロジェクトまで決定

関西圏や首都圏を中心に国内でマンションブランド「ジオ」を展開している阪急阪神不動産は、2016年12月から、タイの不動産デベロッパーであるセナ・デベロップメントと共同で、同国において分譲マンション事業を推し進めています。

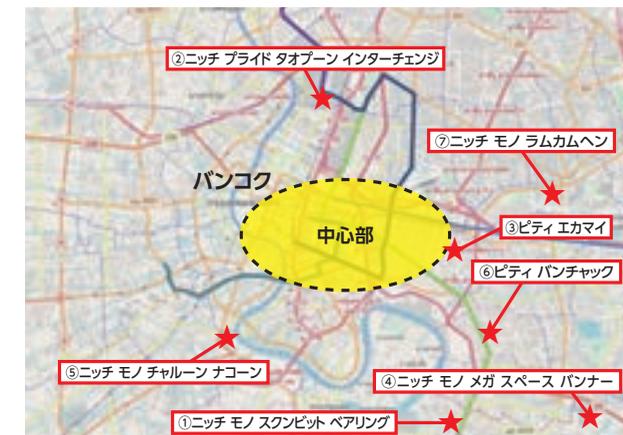
今般、第6号案件となる「ピティ バンチャック」と第7号案件となる「ニッチ モノ ラムカムヘン」に事業参画することとし、これによりタイ国内でのマンション分譲戸数は、総計6,000戸超となりました。いずれの物件も、鉄道の駅付近や幹線道路沿いにあるなど、バンコク中心部へのアクセスに優れた立地であり、マンションの需要が十分に期待できるプロジェクトです。

当社グループでは、これらの取組を通じて、海外における住宅分譲事業のノウハウを蓄積するとともに、これからもアセアン諸国等での同事業の取組をより加速化させてまいります。



■ 阪急阪神不動産のタイにおけるマンション分譲事業

物件名	総戸数	竣工(予定)
①ニッチ モノ スクンビット ベアリング	1,275戸	2019年
②ニッチ プライド タオープン インターチェンジ	742戸	2020年
③ピティ エカマイ	879戸	2021年
④ニッチ モノ メガ スペース バンナー	約790戸	2020年
⑤ニッチ モノ チャルーン ナコーン	537戸	2020年
⑥ピティ バンチャック	約170戸	2021年
⑦ニッチ モノ ラムカムヘン	約1,710戸	2021年



当社グループの多彩なサービスを無料・優待価格で



グループ優待券の主な内容 ※グループ優待券のご利用範囲については券面をご参照下さい。
 なお、ご優待内容や対象施設については、予告なく変更する場合がございますので、ご了承下さい。

旅行割引券



ワイキキビーチ (ハワイ)

施設入場券



六甲山スノーパーク

自然体感展望台 六甲枝垂れ

六甲ガーデンテラス

ホテル宿泊・飲食割引券



ホテル阪急インターナショナル

入館引換券



甲子園歴史館

(2018年11月現在)

優待内容	株主優待回数乗車証 (阪急・阪神共通回数カード)	株主優待乗車証 (全線バス)	グループ 優待券
優待 基準株数			
100~199	2回カード×1枚 (2回乗車分)	—	1冊
200~479	4回カード×1枚 (4回乗車分)	—	
480~999	4回カード×3枚 (12回乗車分)	—	
1,000~1,999	25回カード×1枚 (25回乗車分)	—	
2,000~6,199	30回カード×2枚 (60回乗車分)	—	
6,200~9,799 ※①②のいずれかを選択	① 30回カード×2枚 (60回乗車分) ② 10回カード×1枚 (10回乗車分)	阪神電車全線バス1枚	
9,800~15,999 ※①②のいずれかを選択	① 10回カード×1枚 (10回乗車分) ② 10回カード×1枚 (10回乗車分)	阪急電車全線バス1枚 阪神電車全線バス1枚	
16,000~199,999	10回カード×1枚 (10回乗車分)	阪急電車全線バス1枚 + 阪神電車全線バス1枚	
20万以上	10回カード×1枚 (10回乗車分)	阪急電車全線バス10枚 + 阪神電車全線バス10枚	

株主優待乗車証 (全線バス)



- ・阪急電車全線バスの適用区間：阪急電車線全線 (神戸高速線を除く)
- ・阪神電車全線バスの適用区間：阪神電車線全線 (神戸高速線を除く)

株主優待回数乗車証 (阪急・阪神共通回数カード)



共通回数カードの適用区間：阪急電車線及び阪神電車線全線 (いずれも神戸高速線を除く)

株主優待については、9月30日、3月31日の株主名簿に基づき、それぞれ11月下旬、5月下旬に発送します。

利益配分に関する基本方針及び当期の配当

利益配分につきましては、一層の経営基盤の強化に努めながら、総還元性向 (親会社株主に帰属する当期純利益に対する年間配当金総額と自己株式取得額の合計額の割合) を株主還元の指標と位置づけ、安定的な配当と自己株式の取得に取り組むことを基本方針としております。

上記の方針の下、近時の業績が安定的に推移していることに加え、財務体質の改善が着実に進展していることを踏まえて、前期 (2017年度) の利益配分から、1株当たりの年間配当金を従来の35円から40円 (中間配当金20円、期末配当金20円) に引き上げるとともに、総還元性向も25%から30%に変更しております。

これに基づき、2018年度の年間配当金につきましては、1株当たり40円を予定しており、利益還元をより適時に行うため、この度1株当たり20円の中間配当を実施しました。そして、期末には1株当たり20円の配当を実施する予定です。

なお、内部留保資金につきましては、「阪急阪神ホールディングスグループ長期ビジョン2025」の実現に向けた成長投資に重点を置いて配分していく一方で、財務体質の健全性の維持にも活用してまいります。

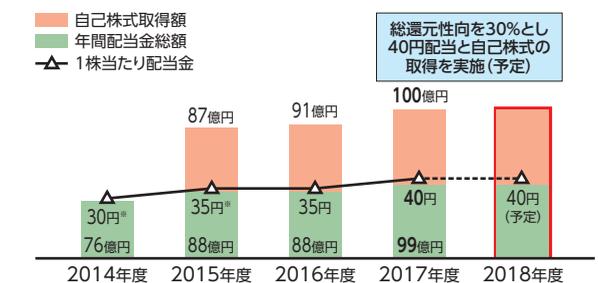
(ご参考) 総還元性向の算出方法

$$n \text{ 年度の総還元性向 } (\%) = \frac{(n \text{ 年度の年間配当金総額}) + (n+1 \text{ 年度の自己株式取得額})}{n \text{ 年度の親会社株主に帰属する当期純利益}} \times 100$$

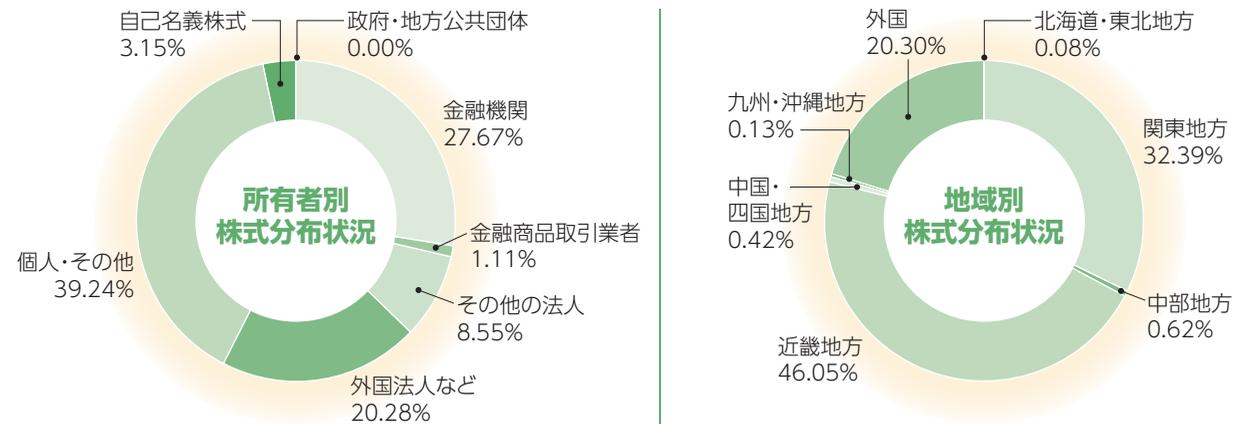
中間配当

中間配当金 (1株につき20円) は、2018年12月3日からお支払いしますので、「配当金領収証」によりお受け取り下さい。また、銀行などへの口座振込みをご指定の方は、「配当金計算書」及び「配当金振込先のご確認」のご案内によりお確かめ下さい。

なお、「配当金領収証」により配当金を受け取られる株主様にも「配当金計算書」を送付しております。配当金を受け取られた後の配当金額のご確認や確定申告の添付書類としてご利用下さい。



※2016年8月1日を効力発生日として5株を1株とする株式併合を実施しており、2015年度以前の1株当たりの年間配当金は、株式併合を考慮した換算値です。



決算期

3月31日

定時株主総会

6月

基準日

定時株主総会

権利行使株主確定日 3月31日

期末配当金受領株主確定日 3月31日

中間配当金受領株主確定日 9月30日

単元株式数

100株

株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関

東京都千代田区丸の内一丁目4番5号

三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先

〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号

三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部

TEL.0120-094-777(通話料無料)

公告方法

電子公告

(但し、事故その他やむを得ない事由によって電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載)

電子公告掲載URL <http://www.hankyu-hanshin.co.jp/ir/>

株式のお手続に関するお問い合わせ先

手続の内容	株式口座の開設先	証券会社	特別口座(※1)
マイナンバーのお届出(※2)	口座開設先の証券会社	証券会社	三菱UFJ信託銀行株式会社(口座管理機関) 大阪証券代行部 TEL.0120-094-777 (通話料無料)
住所変更、単元未満株式買取請求・買増請求などの各種お手続			
特別口座から証券会社の口座への振替請求	—	—	—

※1 2009年1月5日の株券電子化時に、株券をお手元に保管されていた株主様の株式(登録株を含む)につきましては、特別口座で管理されています。
特別口座で管理されている株式につきましては、一般口座にお振替いただくことができます。三菱UFJ信託銀行大阪証券代行部までお問い合わせ下さい。

※2 2015年10月以降、市区町村から通知されたマイナンバーは、株式の税務関係の手続が必要となるため、株主様から、株式口座開設先の証券会社などへ、マイナンバーをお届出いただく必要があります。マイナンバーのお届出の詳細につきましては、株式口座開設先の証券会社などまでお問い合わせ下さい。



今シーズンもご声援ありがとうございました

皆様のご声援をいただき、今シーズンも精一杯戦ってまいりましたが、ファンの皆様のご期待に応えることができませんでした。この結果を真摯に受け止め、来シーズンこそ王者奪還を目指します。

選手会長 梅野 隆太郎 捕手

2013年にドラフト4位で入団。強肩強打の捕手として1年目から92試合に出場。そして、プロ5年目を迎えた今シーズンは選手会長として打率・本塁打ともに自己最高の成績を残し、また守備のスペシャリストに贈られる「第47回 三井ゴールデン・グラブ賞」を受賞した。来年も選手会長、正捕手としてチームを引っ張っていくことが期待される。

「チーム一丸となって、来年は必ず巻き返す1年にします。応援よろしくお願いします。」

力強いスイングに高い打撃技術 糸原 健斗 内野手

2016年にドラフト5位で入団。ルーキーながら開幕一軍の座を掴み、10打席連続出塁でセ・リーグの新人連続出塁記録を更新。プロ2年目となる今シーズンはシーズン安打数152(チーム1位)の達成やオールスターへの出場など、1年間コンスタントに大活躍。今やチームにとって欠かせない存在に、今後も注目が集まる。

「今年の経験を糧に、更に自分のレベルを高めて勝利に貢献できるように頑張ります。」

阪神甲子園球場のメインビジョンをリニューアル

阪神甲子園球場では、2018年のシーズンオフに、球場のシンボルでもあるメインビジョンをリニューアルします。

今回のリニューアルは、2011年のシーズンオフ以来の改装であり、メインビジョンを1面化・大型化します。これにより、2019年シーズンから、ファンの皆様にも、これまで以上に高解像度・高コントラストな映像で、ビジョン全面を使って迫力ある、そして魅力満載の演出をお楽しみいただけるようになります。

